

肺がんの末期と診断された31歳の女性が、抗がん剤のイレッサ(一般名・ゲフィチニブ)による治療を開始したのは昨年8月15日だ。その副作用で死亡したのは、10月17日。この間、救える機会はなかったか。販売元、医師の手だてでは十分だったのか。

抗がん剤イレッサ副作用

警告 2日後の死

さいたま市内に住む自営業、近沢昭雄さん(59)の次女の三津子さん(当時31)に、肺がんが宣告されたのは01年9月11日だった。同時多発テロが起きた、あの日だ。

大学病院で「半年もたない」と言われた。だが、近沢さんは告知できなかった。甘えん坊の娘に、耐えられるとは思えなかった。丸山ワクチンやがんによくとされる健康食品。娘にいろいろ試させた。

10月中旬、県内の公的病院に入院した。症状は進み、強力な治療が必要だった。告知を決めた。「肺がんなんだよ」「うん、知ってたよ」

泣いたのは娘ではなくて自分だった。娘は「どうやって治療しようか。私、生きたいよ」。抗がん剤治療が始まり、入院を繰り返した。

翌年8月、インターネッツでイレッサを知った。医師と相談して、8月15日から、褐色の錠剤を1日1粒、服用した。

9月の終わりごろ、娘の息切れが始まった。階段の途中で何度も休む。これまではない症状だ。

10月3日、定期的外来診察でレントゲンを撮った。一「すぐに入院してください。カリニ肺炎かもしれない」。イレッサの投与を中止した。

入院後、呼吸困難が激しくなった。急激に症状が進み、酸素マスクがつけられた。苦しいからベッドの背は45度の角度にしてある。

看護師が「苦しくなったら教えて。薬をうつつと薬になるから」といってくれた。だが、娘は、眠らされて、そのまま死んでしまうことを恐れ、点滴も注射も受け付けなくなっていた。

両手を握りしめながらあえぐ。背後にある酸素吸入器のバルブを何度も振り返る。もっと酸素が欲しいのだ。「生きたい」。そういつて泣く。

10月16日、父は医師に別室に呼ばれた。

その前日、販売元のアストラゼネカ社が、副作用を警告する緊急安全性情報を出していた。

「娘さんも副作用かもしれない」。17日、娘の呼吸が急に薬になった。ウトウトしながらベッドに座る父親にもたれながら「パパごめんね」。

耐えられず、屋上に上がった。そのすぐ後、娘は急性肺障害で息を引き取った。

3時間後に実施された病理解剖の報告書には、こう書かれていた。

「死因は呼吸不全」

「他の原因は見いだされず、イレッサとの関連が十分にあり得ると判断する」

その後、主治医もイレッサの副作用であることが認められた。

近沢さんは、思う。抗がん剤で助かる命がある以上、この薬をなくしてはいけないとも思う。だが、なぜ自分の娘が、と思うと、やっぱり割り切れない気持ちになる。

は、42人に投与し、20人ががんで死亡したが、8人に効果があったと認められる。8人のうち4人は、がん細胞がほとんど消えてしまった。

「劇的に効く」抗がん剤を、どう育てていくか。世界で初めて日本で承認された抗がん剤で、日本の医療現場が試されている。



イレッサの副作用で死亡した近沢三津子さん(01年3月撮影)

販売元・医師・患者伝わらぬ情報

新薬育てる環境未成熟

近沢三津子さんが亡くなる約1カ月前の昨年9月12日、この病院では、イレッサを投与された男性患者(当時59)が急性肺障害で亡くなった。投与して翌日の急死だった。

内科の医師らは、イレッサの副作用を疑い、販売元のアストラゼネカ社のMR(医薬情報担当者)に連絡。9月20日、イレッサを投与された男性患者(当時59)が急性肺障害で亡くなった。投与して翌日の急死だった。

医師らは、7月に開かれたイレッサの説明会に参加しているが、その時

も、その後のMRとの接触でも、重い副作用が起きているとの情報は聞いていなかった。

一方、ア社は9月初めには海外を含めて約60例の副作用症例を把握していたことがわかってい

る。11日に開かれた社内

の担当者会議では、イレッサと副作用との関連性を認め、添付文書改訂まで検討していた。それらの情報は、現場の医師に伝わってはいなかった。

● 続けた投薬

ア社のMRが、主治医

に副作用で死者が出てい

るといふ情報を伝えた

後、主治医は近沢さんへ

のイレッサ投与を中止し

ていない。中止しないま

でも、せきや呼吸困難な

どの症状がないかどうか

を確認すべきだが、家族

によると、異常が見つか

った10月3日の外来診察

まで、主治医からの連絡

はなかったという。

近沢さんは、イレッサ

の服用を続けていた9月

21日ごろ、胸部レントゲ

ンを撮っていた。その時

点で主治医は、レントゲ

ンに「異常はなかった」と

と家族に説明。とする

と、近沢さんの副作用

は、この後に急激に進行

したことになる。MRか

ら情報を得た時点で慎重

にならなければ、副作用

は防げたかもしれない。

● 劇的な効果

イレッサが劇的に効い

たケースも少なくない。

山口県内の公的病院で

2003年3月3日 朝日新聞